

① 人間生活学研究科（人間生活）2024年度

② 入試区分

人間生活学研究科博士後期課程

③ 出題科目

英語

④ 出題の意図

出題した問題は、大学院博士課程にて骨粗鬆症および骨質の研究を希望する受験生に対して出題した。その意図として、骨密度と骨強度、さらには骨粗鬆症に関する基本的な知識の有無、さらには博士後期課程においては英語で書かれた文献から一次情報を入手し、理解できる語学力を有しているかどうかを確認するために出題した。

令和6年度 人間生活学研究科博士後期課程人間生活学専攻入試外国語問題
解答用紙(Ⅰ)

番号_____ 名前_____

問題Ⅰ 以下の英文を読んで問い(1～3)に答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

問1.骨量を

- ① 増加する因子: _____
- ② 骨量を維持する因子: _____
- ③ 骨量の減少を遅くする因子: _____

問2. 骨質とは

問3. 骨粗鬆症患者の今後の骨折を予測する因子として使われるのは

問題Ⅱ 以下の英文のうち、2つを選択して和訳しなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

令和6年度 人間生活学研究科博士後期課程人間生活学専攻入試外国語問題
解答用紙(I)

番号_____ 名前_____

問題 I 以下の英文を読んで問い(1~3)に答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

問 1.骨量を

- ① 増加する因子: 子ども時代及び思春期の栄養状態・身体活動、思春期の始まり
- ② 骨量を維持する因子: 大人になってからの性周期、栄養、運動
- ③ 骨量の減少を遅くする因子: 閉経の時期、脂肪量、筋肉量、身体活動量、ビタミン D 摂取量

問 2. 骨質とは

骨質は、骨線維と骨塩の比率および骨の微子構造によって規定される。コラーゲンの微細構造やクロスリングの度合い、さらにはコラーゲンの糖化の程度によっても影響を受ける。

問 3. 骨粗鬆症患者の今後の骨折を予測する因子として使われるのは

性別、年齢、体重、骨密度、骨折歴を基にして計算する FRAX または Gravan 値

問題Ⅱ 以下の英文のうち、2つを選択して和訳しなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

